



パシオン通信 9月号

轟音と豪雨音 システム開発1部 K・I

以前メールで通知が来ていた、『富士総合火力演習研修』に応募したら繰り上げ当選してしまったので休みを取って見に行ってきた。正直繰り上げは想定外である。

8月23日、4時起床。因みに寝たのは1時過ぎ。興奮して眠れないのではなくソシャゲのデイリーミッションの消化で寝ていないだけの愚か者である。

軽く身支度をして集合の横浜駅を目指す。最寄りの武蔵小杉駅へ。始発の武蔵小杉駅は数人しかいなかった。こんなに人がいない武蔵小杉駅を見るのは初めてである。出勤時間帯もこのぐらいだったらいいのに……。そんなことを考えつつも横浜駅に到着。そこからバスに乗って富士の演習場へ向かう。バス移動は割愛。家の用事で静岡方面に行くことがあるので風景に新鮮さがあまり無いのである。休憩に立ち寄った足柄SAも変わらなかった。

それはさておき、演習場のバス駐車場に9時着。そこから山道を歩いて10分。ようやく演習場に到着した。演習場付近には、他の見に来たグループが多く集まっていた。入場チケットを貰い一時解散。とりあえず席確保が本来の流れだが、今回単独で来ているようなものなので先にお土産購入。Tシャツ等も売っていたが帰って着る機会があるか微妙だったのでお菓子系だけ購入。戦車の入れ物のクッキー等、記念になりそうなものを購入した。数時間後にTシャツを買わなかったことを軽く後悔することになる。購入後は早々に席確保。時間もまだ早いので前の方に座れた。演習場は横長で自分のチケットはだいぶ右側だった。



10時になり、火力演習が始まった。放送による紹介と共に映像でしか見たことがないような戦車が入場し、指定位置に配置される。そしてそこからの砲撃。響き渡る轟音。音の衝撃が体に響いて思わず声が出た。そして発射から数秒遅れて着弾の煙が上がり、また数秒して着弾の音が響く。素で感嘆の声が漏れる。これが、戦車か。想像を遥かに超える衝撃。ありきたりな言葉しか出てこない。

目次	
轟音と豪雨音	1
夏の今昔	2
私の中に住んでいる 小さなおじさん	3
新人奮闘気(後編)	4



説明が難しい。ただ全てが想像を超えていた。



戦闘用のヘリコプターも飛んでくる。他の戦車も入れ替わりで砲撃していく。その一つ一つが日常とかけ離れた体験をもたらした。それに感動しつつ、自分は豪雨に打たれながら演習を見続けていた。雨に打たれながら。

実は少し見ていると晴れていた雲行きが怪しくなっていた。山の天気は変わりやすいとも言うが、この時台風が丁度近づいてきていた。その影響もあつたのだろう。雨が降り出す。レインコートを着る。雨がやんで日が差す。暑いので脱ぐ。雨が降り出す。と何度か繰り返し、11時半頃、雨雲レーダーが青を通り越し赤黒く染まる量の大雨が振り出したのである。



お土産はビニールで守ったので問題ないが、レインコートは防水効果を早々に放棄。結果として演習が終わる頃には全身濡れてしまっていた。そこからバスに戻るも、タオルも水浸し。ここまで降ると考えていなかったため着替えもない。ここにきて漸くお土産としてTシャツを買えばよかったと後悔したのであった。

結局帰りは湿気にまみれたまま、最低限バスのシートだけ濡らさないようにして帰宅。富士から少し離れるだけで回復した天気にあきれつつも見学を終えるのだった。

余談だが、この演習は自分は木曜日に見に行ったが、本番は日曜日だったようである。抽選倍率は28倍。この数値が日曜日のものなのか他の日も含めた数値なのかは不明ではあったが、めったにない体験であったのは確かである。

夏の今昔 システム開発1部 Y・T

今年の夏もクソ暑かったですね。

本当に命に係わる暑さってヤツでした。

こんな中、屋外で働いている方やエアコンの無い所で過ごす方はまだまだ暑いので熱中症にご注意を！

また、エアコンの効いた寒いオフィスと灼熱の通勤地獄の繰り返しと夏の疲れで体調を崩しやすい頃かと思えますので体調管理にはお気をつけください。

ところで暑い教室で勉強している学生さんも気の毒ですよ。今年は授業中に熱中症で救急搬送されたとか。未だにエアコン未設置の学校も多いそうですが、「クーラーなんて贅沢だ！ワシの若いころは・・・」云々と文句を言うお年寄りがいる事にも驚きを感じます。

私は東京生まれの東京育ちですが、今の夏と昔の夏では暑さの質も変わり様子も大きく様変わりした事を子供の頃の体験として覚えているからです。まずは気温。それはもう、ウン十年お前の話ですが、私が子供の頃の東京の気温って暑い日でもせいぜい32～33度程。ごく稀に特別な気象条件の時に八王子とかの盆地で38度とかを記録して大騒ぎになっていたのを覚えており、そんな日は親が「帽子かぶれ」だの「日陰から出るな」と煩かったのを覚えています。いまや各地で40度近い気温が連日続く事も珍しくなくなり命に係わる暑さですし、むしろ沖縄の方がはるかに涼しいという事実に驚きを隠せません。近い将来は沖縄が避暑地に認定されるかもしれませんね？

そして夏と言えば夕立。夕方には入道雲がやって来て「夕立」が気温を一気に下げてくれました。あの夕立の土の匂い、懐かしいですね。今やそんな風情を感じる前にズ濡れですから。お腹を出して昼寝をしていると急に気温が下がりお腹を冷やして壊すので「雷様におへソ取られるよ！」なんて、お母さんに叱られるのが世の中の定番でしたが、それも今は聞く事は無くなりました。

夕立は「ゲリラ豪雨」に姿を変え過激になりましたが涼しくならないばかりか災いばかりで困ったもんです。

もう一つ、聞かなくなった言葉に「朝の涼しい内に宿題やっちゃいなさい！」とうお母さんの叱り声。昔は早朝は涼しかったんです。今や熱帯夜の延長で朝から全開でクソ暑いからです。

そして何といっても今年一番驚いたのが学校のプール！暑すぎて各地の学校のプールの授業が初めて中止になったとか。何のギャグ？冗談かよ？って思いましたよ。熱せられたプールサイドで火傷する恐れがあり、プールの水温も30度を超え熱中症・熱射病の恐れがあるそうなの・・・

世も末なんでしょう。

ちなみに私が子供の頃は逆にプールの水温が低すぎてプールの授業中止なんて事がちょいちょいありました。二学期・夏休み明け第一週の体育の授業は決まって水泳の検定試験があったんですが、その頃には寒くて全員唇を真っ

青にしてタオルにくるまってブルブル震えているのが恒例でした。今や、10月まで営業してるプールもあるくらいですから如何に温くなったか。ここ数年はクールビスを10月まで延長して10月末まで半そでで過ごしてましたっけ。

もう一つ、「夕涼み」。これも滅びましたね。

夕立の後はスッと涼しくなり日が落ちた頃には熱気の籠った家の中より外の方が涼しいので縁側に蚊取り線香出してヒグラシの鳴き声を聞きながらスイカをかじって涼んだというテレビドラマの様なシーンがリアルに存在したんですが、今や夜になっても気温が下がらず屋外出よう物なら逆に暑くてみんな殺気立ってますよね。

この頃（白状すれば1970年代頃）「ウィンドファン」なる家電製品がありました。聞いた事あります？窓に取り付けて換気扇とは逆に屋外の空気を屋内に取り入れるだけの極めて単純な家電製品で、もちろん冷却機能なんてありません。本当に外の空気を屋内に送るだけの装置なんですけど、これでも寝冷えするくらい涼しかったのを覚えてます。

あ、「寝冷え」って言葉も聞きませんか？そこそこの年代の方なら、「言われてみれば確かに・・・」と感ずるかもしれませんが、年々ジワジワと気温が上がって行く”茹でカエル”の例えのように異常に気付かない物です。

今年の気温は「平年並より少し暑い」なんて表現も曲者で、直近30年の平均を10年ごとに更新している物らしいのですが50年・100年・1000年の長い目で、あるいは地球の歴史規模の目で見れば確実におかしい事になっていると思います。

この先「東京で50度！」ここはサウジアラビアか？なんて時代が来るかもしれませんね？私は暑いのが苦手なので恐怖です。本当に。

そして今年は台風！

この夏の台風で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。もう勘弁してほしいです。台風って、こんなに毎週の様に来るものでしたっけ？ここ数年は海水温が高いために台風が大量発生するという上に規模も大型化しているとか。これから本格的な台風シーズン到来ですが、暑さ対策に続き台風への備えもお忘れなく。

こんな風に気温などのデータだけでなく、体感温度的な記憶も併せてもっておくと、「ああ、確かに今って気候がおかしくなってるんだ」って実感がわいてきます。皆さんも子供の頃の夏の事を思い出すといくつか心当たりが有るのではないのでしょうか？

本当はこんな呑気な事を言っている場合では無いかもしれませんが、とりあえず

「ビールがおいしい」



私の中に住んでいる小さなおじさん システム開発1部 T・K

人工知能って言葉、今となっては頻繁に耳にしますが、こんな思考実験をご存じでしょうか？

「中国語の部屋」

とある密閉された部屋に、日本語しか話せない男を閉じ込めます。その部屋の壁には小さな穴が開いていて、隣の部屋から小さな紙が穴を通して渡されます。

紙には質問文が書かれていて、これに回答して紙を送り返すのですが、これがなんと全て中国語で書かれています。さらに、回答も中国語でないといけないという…。

そこで登場するのが、「中国語完全マニュアル」的なアイテムです。

これがあれば、マニュアルを見ながら紙に書き写すだけで済みます。

回答を受け取った隣の部屋の人からしたら、「中国語での会話が成り立っているから、この部屋の人物はきっと中国人なんだな」と思うことでしょう。

これこそがジョン・サールという人物が提唱した「中国語の部屋」です。

関連した話で、「チューリングテスト」というものがあります。これは、人工知能が人間を真似てチャットをし、人間と区別がつかなければ「知性あり」と判断するものです。

これは実際に2014年に合格者も出ています。(技術力凄いい…)

中国語の部屋とはつまり、チューリングテストのリアル版です。

ジョン・サールが言いたかったことは、「こんなテストに合格しても、知性があるとは言えなくね？

だって中国語の部屋の男は中国語自体を理解しているわ

けではないんだ。人工知能に知性は宿らないよ！」
確かにそうです。でもそれに対するよくある反論がこちら。

「部屋全体で考えれば、理解していると言っていいのでは？」

私たちだって脳を開いても日本語が喋れる小さなおじさんが存在しているわけではないはず。

身体全体で理解していると言っていいでしょう。それなのに、中国語の部屋では男+マニュアルで構成されているわけだから、その一部分だけ抜粋して「理解していない」というのは変な話ですよ。

しかしジョン・サールはこれに反論しました。

「部屋の男がマニュアルを完璧に暗記したとしても、理解しているとは言えない。何故なら暗記しただけで意味をわかっていないから」

なんだか難しい話ですよ。 「理解」という言葉の意味を考えさせられます。

なお、私たちの脳の構造が、この中国語の部屋の構造とは違うという保証はどこにもありません。

もしかしたら本当に小さいおじさんが住んでいるのかも…

もしそうだとしたら、エンジニア気質の頭のいい小さいおじさんを誰か譲ってくれませんか？

代わりに私の脳にいるアホおじさんを贈呈します。

ご連絡お待ちしております。



<<< 今後の予定 >>>

- 10月17日(水) 下期キックオフ 19:00~ 本社
懇親会 20:00~ ビストロボンノ(本社から徒歩3分)
- 10月21日(日) 情報処理技術者試験
- 11月 9日(金) 宿泊忘年会 20:00~ マホロバマインズ三浦
<https://www.maholova-minds.com/biz/index.php>



新人奮闘記（後編）

システム開発2部 K・K

☆ 研修

そこまで大きな問題はなく、研修を終えることが出来ました。

ただ、それは自分の能力のおかげではなく、自分と同じ箇所のコーディングをする他の班の人と助け合えたおかげというところが大きかったです。特にバグ取りでは、自分ひとりで半日ほど考えてもバグの原因が特定出来ず、行き詰っていたところを助けてもらって解決したということがあり、その部分に関して言えば、自分ひとりではもっとずっと時間がかかっていたと思います。

研修での経験が現場で直接的に活きるということはありませんが、興味深いことをたくさん学べたり、同期との交友関係が広がったりしたので、良かったです。

☆ 現場

研修が終わってから、パシオン本社やNDSにいた期間や、お盆休みの期間があったので、現場で作業をしたのはたった2週間ほどになります。今の時点での所感を書いていきます。現場では、システムの運用・保守を行っています。大学や研修では経験したことの無い作業が多く、とにかく覚えることが多いです。

今のところは現場の先輩に教わりながらその通りに作業を進めているだけなので、ついていけないといったことはありませんが、作業の進め方を覚えきれているかが若干不安ではあります。

集中して話を聞いて、メモをとり、次に同じような作業をするときは一人で進められるように頑張っていきます。

システム開発2部 T・U

6月に研修を終えてから半月ほどたった後、配属先が決定して働き始めてはや1ヶ月がたちました。職場の雰囲気には慣れてきましたが、仕事は慣れないことばかりでヘトヘトです。その影響なのか、食べるお菓子の量も3倍ほどに増え、monsterが手放せなくなってきたので健康診断が楽しみになってくる今日この頃です。夏場のアイスのように食費でお金が溶けていくので改善したいという気持ちだけは持っておこうというところ。

さて仕事についてですが、研修では気づいたところを随時直していけば完結したようなことも、周りに情報を伝達していかなければ思わぬところで手違いが起きたり、誤字脱字一つでレビューの手直しになるので気が抜けないなと思いました（今まで気を抜いていたわけではないですが・・・）。しかもそのミス一つで先輩の時間も取らせてしまうプレッシャーも少々あり、結果お菓子が増えます。注意をしても見落としがでてケアレスミスがでてしまう傾向があるので今後改善していけるよう努めていこうというところ。内容に関しては配属された直後に詳細設計書と新規のコーディングから入ったので、出だしで良い経験ができたのかなという感じでした。研修で扱っていない言語だったので戸惑うところは多かったです。漢字の項目名にも慣れてなんとか終えることができました（相応に時間が多くかかりました）。

一方仕事以外の面ですが、今自分が行っている客先は、思っていたより堅苦しいイメージはなく、正直肩透かしでも食らったかのような感じでした。もちろんふざけているわけではないですが、所々で談笑する様子が見られたり、ちょっとした冗談を交えて仕事の話をしたりという具合。昼休みやちょっとした時間に旅行や趣味の話をすることもあり、アットホームな雰囲気です。友人の職場では派閥ができてギスギスしているという人がいるので、環境としては質問もしやすく良い環境だと思いました。生活面では土曜日の祝日の振替があるということも衝撃的でした・・・

！バンザイ！今度よくわからない休みもあるそうです。仕事はまだまだ要領よくできず、時間がかかってしまいがちですが頑張っていけそうな予感を感じています。より確実に、より短い時間で仕事をこなすことと、半年後くらいに別人級の体格になっていないようにすることが当面の目標です。

本紙はパシオン社員の親睦を目的にした社内報です。

パシオンをご理解下さる関係者に限定配布しております。

本趣旨にもとるご利用、お取り扱いにご容赦いただきますようお願い致します。